

# TUAD IS HERE

日常の中の芸工大。

## ミサワクラス

### 「ARCHITECTURE FURNITURES」

WEB

山形県上山市にある武蔵建築店で「ミサワクラス」の柄が完成する。学生・OBの4人が制作してきたこの柄は、滞在型アート「ミサワクラス」の外観をそのままだesignしたもので、11人が暮らしやすいように位置にそれぞれの椅子がはまり込むように作られている。一見すると建物の柱のほとんど同様の見える仕掛けや、建物の柱と同じ太さの木材が使用されるなど、建築物の構造的特徴を活かした豊かなアイデアをシンプルに表現する工夫がなされている。共同生活の場であり、アーティストとしての精神交流の場でもある「ミサワクラス」の象徴となるこの柄は、個人の集いである11人が、人や情報の流れに触れながら社会へと働きかけるスタート地点ともいえそうだ。

WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/misawa/>

ミサワクラスマンバ  
基本コンセプトからデザインの実案まで盛り込まれた面白いながら理が詰まっています。ミサワクラスの中心メンバーである大越秀樹、新聞後太郎、古川彰敏、松山謙の4人。彼らは11m here プロジェクトの一環として、ミサワクラスの長期滞在制作に取り組み中である。ミサワクラスとは山形市の中心街にある元旅館をリノベーションした旧旅館の名称で、街中の空き物件を再生させて地域活性化を図ろうとする動きのひとつである。

## 表紙のART

WEB



「南山座」大道芸巡業のための仮設舞台

この夏から初秋にかけて開催された(大地の芸術祭一越後妻有アートトリエンナーレ2009)で舞踏や大道芸などを披露した家族舞踏団「南山座」。美術ディレクターのもと、その装置の実制作を任せられたのが、大学院芸術領域の坂内まゆ子さんと研究生の松田かやさん。舞踏家本人や舞台監督との打ち合わせでキーコンセプトは「草」に決定。2人のこだわりでもあるドットや植物のモチーフを提案し、装飾用の布や敷物を制作しました。クッションは子どもたちを気遣ってプラスした小道具。現地で草花を採取してカゴに装飾するなど舞踏団の演出にも立ち会い、地元との一体感を追求しました。

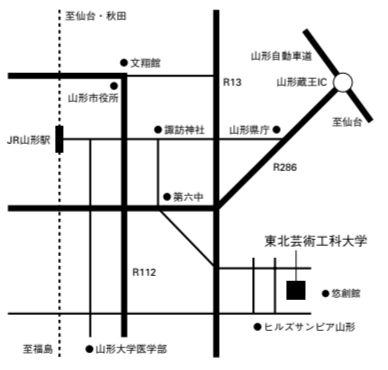
## 「g\*g」とは?

芸工大広報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがすごい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」。親しみを込めて「ジージージ」と呼んでください。広報室では、「g\*g」を置いてくれるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

## 東北芸術工科大学

- ◎芸術学部
  - 美術史・文化財保存修復学科
  - 歴史遺産学科
  - 美術科[総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸・陶芸・金工)/テキスタイル]
- ◎デザイン工学部
  - 企画構想学科
  - プロダクトデザイン学科
  - 建築・環境デザイン学科
  - グラフィックデザイン学科
  - 映像学科
  - メディア・コンテンツデザイン学科
- ◎大学院芸術工学研究科
  - 博士後期課程 芸術工学専攻
  - 修士課程 [芸術文化専攻 / デザイン工学専攻 / デザイン工学専攻 仙台スクール]
- ◎研究機関
  - 総合研究センター / 東北文化研究センター / 文化財保存修復研究センター / こども芸術教育研究センター / デザイン哲学研究所 / 東アジア芸術文化研究所 / 社会芸術総合研究所

## ACCESS



## 東北芸術工科大学広報誌 g\*g

2009年10月14日発行  
発行:学校法人東北芸術工科大学  
〒990-9530 山形市上楡田3-4-5  
東北芸術工科大学広報室  
TEL:023-627-2246 FAX:023-627-2185  
WEB:www.tuad.ac.jp  
E-mail:hello-gg@aga.tuad.ac.jp  
Design: Creative Room J1  
Printing:Tamiya Printing co.,Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2009

「ジージージ」2009 AUTUMN VOL.11  
東北芸術工科大学



芸術市民と「ジージージ」に創る芸工大広報誌



写真提供:株式会社フューロン・キョウカイ

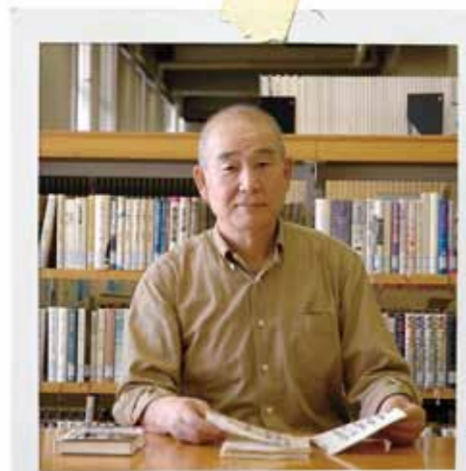
ARTS & CREATIVITY  
JUNE 2010 CREATIVE



芸工祭

〈芸工祭〉と〈卒展〉には、毎回わくわくしながら足を運んでいます。今日はオープニングから参加してウェストバッグや手作りの指人形を買いました。展示もバラエティに富んできて、より楽しくなってきましたね。私にとって芸工大は太陽の昇る場所。高揚感と刺激を与えてくれます。 **WEB**

●斎藤さん、金子さん／山形市



60歳で芸工大生

土木系の技術者として働いた後、定年退職して現在は学部生として大学に通っています。病気を経て人生観が変わり、自分が本当に学びたい分野に取り組みたいと考えました。自分のペースで自分の好きな勉強ができるという事がとても楽しく毎日充実しています。世代の違う学生と話をするのも楽しいです。若い学生たちには、もっと本気を出して勉強も遊びもやってもらいたいと思っています。

●荒井さん／山形市



オープンキャンパス



小説家講座

魅力的な講師陣に惹かれて何度か受講しています。講師の方が素晴らしいので毎回勉強になりますし、自分の作品に対して先生方から意見をもらえる場はとても貴重です。08年に『臨床真理』（09年／宝島社）で、宝島社が主催する「このミステリーがすごい！」大賞を受賞し、作家として活動しています。現在は次回作にむけて執筆中です。専門書が多く、調べものには丁度良いので、芸工大の図書館はよく利用しています。

●柚月さん／山形市

## 芸工大の利用の仕方は、十人十色。それぞれの場所で突撃インタビュー。

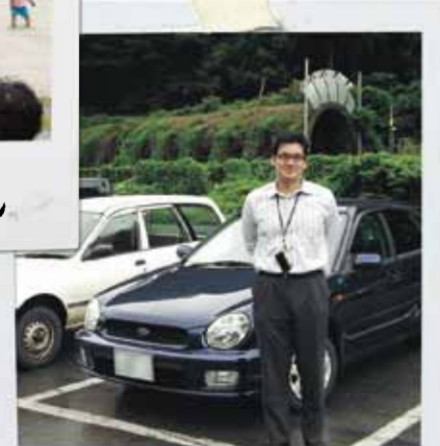
芸工大は在学生だけのものではありません。実は、一般の方も参加できる講義やイベントが盛り沢山。実際にお越しいただいた方々にインタビューをしました。これを機会に、ぜひ皆さんも「芸術市民」として芸工大に足をはこんでみてください。



THE 猿まわし

〈こども芸術大学〉に通っている子どもと主人の4人で見に来ました。猿を間近に見られる機会がないので子どもにとっても私にとってもいい時間だったと思います。芸工大は市内を一望できる環境の良さといろんな情報が得られて、親と子の両方にいい刺激を与えてくれますね。

●佐藤さん親子／山形市



仙台スクールの社会人大学院生

以前に仕事で芸工大に伺った際にお会いした先生に影響を受け、ぜひ芸工大で学びたいと思ったのがきっかけで〈大学院仙台スクール〉に入学しました。今日は、山形県最上町の瀬見温泉郷で行われる夏祭りの視察に参加しました。「義経東下り」を表現した光のイベントなどが素晴らしいです。現在は、働きながら学ぶということが毎日楽しく、生活の一部としてなくてはならないものになりました。

●小野さん／仙台市



科目等履修生

昨年、車のラジオで企画構想学科の存在を知り、自分が今まで興味のあった「企画」を学べそうだと思い、オープンキャンパスを覗いたのがきっかけで、〈科目等履修生〉に申し込みました。仕事の時間を削って仙台から通っているのですが、できるだけ多くの事を吸収したいです。毎回学ぶべき事も多く、ビジネスにフィールドバックできそうな内容なので今後の授業展開が楽しみです。

●五十嵐さん／仙台市



掛け軸の修復を依頼



ライティングオブジェ展

毎年楽しみにしている〈ライティングオブジェ展〉に娘と2人で来ました。身近な素材で面白い形を作る、斬新なアイデアが好きですね。彫刻刀などの販売店を営んでおり、学生や先生がときどき買いにきてくれるので、芸工大は少し身近な存在です。

●藤沢さん親子／山形市



学食で本格フランス料理

芸工大の施設見学と学食の特別フランス料理を食べる〈施設見学とカジュアルコースを食べる会〉の事は新聞を見て知りました。以前から芸工大に興味があり、すぐに申込みました。意外と地域に開かれた大学ですね。公開講座なども受講しようかと思えます。食事は地元産の夏野菜を使ったもので、美味しく彩りも綺麗で満足。これからも市民が大学に来るきっかけ作りをして欲しいですね。

●橋松さん、池田さんご夫妻／天童市



六十里越街道を歩く会

18歳で山形を出て神奈川で暮らし、60歳になって戻ってきました。山形、東北の事をもっと知りたいと思い、昨年から気になっていた〈六十里越街道を歩く会〉に今年初参加です。以前、街道の一部を歩いた経験もあり、今回のために120kmほど歩く練習をしましたが、それでも六十里は奇酷！東海道五十三次なども巡りましたが、それよりずっと険しい道のりですね。芸工大はイベントが多く注目しています。今度は羽州街道もやってもらいたいですね。

●菊地さん／上市市

お寺の文化財も修復してくれると聞き、傷みが気になっていた江戸時代後期のお涅槃図の修復を〈文化財保存修復研究センター〉にお願いしました。これまで100年以上経ってきたお涅槃図で、檀家の皆さんの気持ちがかもったもので、更にこれから100年残るように修復してもらえればと思います。芸工大は首都圏の大学では難しい、地域へ開かれた、良好な関係をつくられているところだと思っています。

●伊藤さん／高畠町

### 公開講座

一般の方を対象にした公開講座を開講しています。生涯学習の一環のほか、趣味のレベルアップや新しい趣味を発見するきっかけとして、皆さんのご参加をお待ちしております。受講料、募集期間は講座によって異なります。大学HPにて講座の詳細な情報を掲載しておりますのでご覧ください。  
お問合せ：本学エクステンション担当 TEL：023-627-2091

### 科目等履修生／一般聴講生

芸工大には、高校を卒業した方、それと同等の能力が認められる一般の方が本学の講義を受講できる、科目等履修生と一般聴講生の制度があります（「科目等履修生」：単位の修得を希望する方／「一般聴講生」：単位の修得しないが聴講を希望する方）。履修できる科目は、該当年次に開講する講義科目、外国語科目、共通演習科目です。受講生は本学図書館からの本の貸し出し、学内無線LANや大学メールアドレスの利用などが可能です。納付金は入学金20,000円に加え、科目等履修生は1単位20,000円、一般聴講生は1単位10,000円になります。募集期間は前期が3月下旬頃まで、後期が9月上旬頃までです。お問合せ：本学事務室 TEL：023-627-2010

### 社会人特別選抜試験

芸工大では、社会人の方向けの入試制度として、「社会人特別選抜試験」を実施しています。高校卒業後5年を経過した方、あるいは高校卒業程度認定試験に合格した方などが受験可能です。全ての学科コースで受験が可能で、試験方法や実施時間は自己推薦入試と同様になります。出願期間は2009年10月21日（水）から11月4日（水）です。試験は本学で実施する山形会場の他、東京、札幌でも実施します。  
お問合せ：本学入試課 TEL：0120-27-8160

### 研究生

「科目等履修生証」や「一般聴講生証」の他、研究活動に対応した指導教員の指導を受けられるほか、指導教員などの承諾を得て研究の関連授業を聴講できる「研究生」制度があります。ただし、単位の修得を希望する場合は、併せて科目等履修生としての入学が必要です。納付金は、入学金が20,000円、授業料が月額30,000円です。出願期間は前期が2月中旬頃、後期が8月中旬頃になります。  
お問合せ：本学教学事務室 TEL：023-627-2010



絵の具をたっぷり使って楽しそうに絵を描くウガンダの子どもたち。現地での映像を解説する宮島教授（左）と石田氏（右）。

### ウガンダの子供たち \* 芸工大生

## エイズ孤児にアートができたことは、自分の想いをかたちにする素晴らしさ。

7月11日、東京の国立新美術館にて「ウガンダのエイズ孤児、アーティストに会う」と題したシンポジウムを開催。芸工大からは、現代美術家の宮島達男副学長と脚本家の小山薫堂教授が参加。ワークショップを考案した学生もステージに立ち、アフリカが抱える社会問題に投げかけた、明るいアクションを発表した。

シンポジウムの第1部は、2009年1月に宮島副学長・教授がウガンダを訪れ、エイズ孤児たちと行ったワークショップの報告会。今回のワークショップには、人の死と向き合う機会の多いウガンダの孤児たちに、プレゼントとなる楽しい時間や達成感を味わってほしい、との想いが込められています。宮島教授のほか、学生や開発途上国援助に取り組む世界銀行 TDLC の石田俊輔氏を交え、これまでの経緯と様子が伝えられました。世界銀行から今回のきっかけとなる話を聞いた宮島教授は、芸術やデザインが社会へ与えられる力を直接的に学べる機会と考え、芸工大生と姉妹校の京都造形芸術大学の学生の参加を募り、

プロジェクトとして展開。「発展途上国にとって、食糧や医療といった援助は最低限必要です。しかしパンと水があれば音楽はいらぬのか」という現地関係者の声を聞き、参加学生も、アートで孤児たちに楽しい時間を過ごしてもらおうというアートの役割について認識し、具体的な実施計画として練りました。いくつかの案から選ばれたのは、「生まれる未来をつなごう」という、大きな布に子どもたちのシルエット（輪郭）を描き、そこに各自の夢を描き込むというもの。はじめに山形の子どもたちがお互いのシルエットを描いた布を携えて、宮島教授が代表者としてウガンダを訪れ、それに重ねるように現地のエイズ孤児、

約30名が互いのシルエットと自分の夢を描きました。普段の学校での勉強とは異なり、自己表現をする機会の少ないウガンダの子どもたちが初めて手にする絵筆や絵の具で、探りながら布に描く様子を宮島教授が解説。そんな彼らの夢は、サッカー選手になりたい、車がほしい、ガソリンスタンドで働きたい、など素朴なもの。その両国の子どもたちの想いが込められた鮮やかな布が重なることで、お互いの等しい存在を重ねるという、距離や言葉を越えた作品に仕上がりました。また当日は、会場と現地でテレビ中継が結ばれ、現地 NGO の ASHINAGA ウガンダの佐藤さんが「彼らの暮ら自体に劇的な変化はなくても、次の機会をとても楽しみにしている。」と次への想いも伝えられました。2部ではアートとデザインの可能性について、マエキタミヤコ氏を交えたシンポジウムを開催しました。その様子は WEB でご覧ください。 **WEB**



ウガンダのアスタンプタさんからの絵はがき  
ワークショップの後、ウガンダの現地で NPO「MUKWANO」を立ち上げている永谷裕香さんを通じて届いた、エイズ孤児のアスタンプタさんからの手紙には、レインボーハウス（ワークショップ会場）でみんなと絵を描けてとてもうれしかったこと、どうしたら自分の夢を絵に描けるかを今も考えていること、そしてアスタンプタさんの「未来への希望」を表す花の絵が描き添えられていました。

### NPO「アフリカの水」代表 桜木奈央子さんの写真

日本の学生たちへのウガンダの勉強会に協力していただいた桜木奈央子さんは、大学時代に内戦中のウガンダを訪れたことをきっかけに、NGO 現地コーディネーターとして活動。桜木さんの写真には、ウガンダの風土や人々の圧倒的な美しさが写されています。アートを通じて、世界中の多くの人と繋がりを持つということも、今回の大きな収穫のひとつです。WEB: <http://sakuraginaoko.com/>



### こども芸術大学の子どもたちと

学生たちが考えたワークショップのアイデアを、こども芸術大学の子どもたちと父母さんが、実験も兼ねてまず日本で実践。ウガンダのエイズ孤児の子どもたちへ日本で生きる私たちの存在を伝え、こども芸術大学の子どもたちが、遠く離れた人々の存在を身近に感じるきっかけにも。芸工大ならではのワークショップと言えます。



日本画の可能性に挑む作家による META 展が、芸工大にやって来た。かつての師と学生が、作品を通して互いの今を確かめ合った。

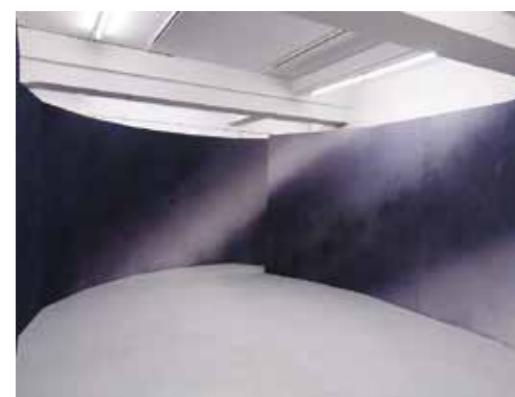
9月28日から10月10日までの13日間、本館7階ギャラリーでグループ META による展覧会「ダイナミズムの源流 HEAVY META II」を開催しました。META は、伝統技法を踏襲しながらも新しい現代日本画を追究し続ける気鋭作家グループによる作品展。本学美術科日本画コースの長沢明教授と、長沢教授の推薦でメンバーとなった本学 OB の佐藤裕一郎さんをはじめとする10人の作家による大作が来場者を圧倒しました。

特に、現役学生たちの間では、数歩前に行く先輩として身近な佐藤さんの作品が注目の的だったようです。現在は、埼玉県を拠点に制作活動中の佐藤さんは今回の展示を機に母校を訪れ、長沢教授とのうれしい再会となりました。佐藤さんにとって長沢教授は師を超えた存在。在学中に教授が着任されとことを本当にラッキーだったと振り返ります。長沢教授にとっても佐藤さんとの出会いは鮮烈だったようで、「教室の中で浮きまわっていた彼の気骨とオーラに、コイツやるな」と直感したそうです。1対1の時には一作家としての苦悩を佐藤さんに吐露し、リアルな作家像を隠さず見せつけたという長沢教授。

そんな2人が思い出の多いギャラリーで競演を果たした「HEAVY META II展」。佐藤さんの作品に対する長沢教授の評価は「さすがに質は高いけど、品がよすぎないか。もっと暑苦しい作風だったのに」となかなか手厳しい。「いろいろ言われる事は承知の上です。次の段階へのプロセスとして正反対の事や新しい要素に挑戦しています」と言い切った佐藤さん。長沢教授は大きく頷いて共感し、教え子の人間の成長を改めて実感したのか、「東京から発信するのはもうカッコ悪い。山形に帰って来て、東北からムーブメントを起こそう」と帰郷を促していました。日本画の新しい潮流は山形に端を発することになるかもしれません。

佐藤裕一郎 Sato Yuichiro  
1979年山形県生まれ。東北芸術工科大学大学院日本画研究領域修士。創画展入選、臥龍桜日本画大賞展優秀賞など、在学中より注目を集める。2007年より長沢教授の薦めで META II展に参加。現在は、埼玉県を拠点に作家活動中。

長沢明 Nagasawa Akira  
1967年新潟県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了。柏市文化フォーラム104大賞展 TAMON 賞受賞など受賞歴多数。2001年より META 展参加。「トラ」シリーズで知られる本学芸術学部美術科教授。



左:「shadow in soil 094」佐藤裕一郎 パネルに和紙、顔料、金属粉、染料 / 227×1820cm / 2009年 右:「トトラ」長沢明 寒冷紗に土、石膏、岩絵具、クレヨン / 227.3×456cm / 2009年

### 芸工大OB \* 教授

## 山形を原点として、接点として 大作に挑み続ける二人。



INTERVIEW

### 美術科日本画コース

自然素材の顔料で描く日本画。スケッチ旅行や、岩を砕いて作る岩絵の具制作、コースの畑で収穫した植物や野菜をモチーフにするなど、日本画の奥深さ、自然を描くことを根拠から見つめる精神性を大切にしています。また日本画壇を牽引する指導陣が勢揃い。先生と学生、学年間との距離も近く、お互いに高めあう環境が整っています。



### 大学見学・ギャラリートーク

芸工大では、高校生や小中学生、一般団体の方などの大学見学を随時受け付けています。また、7階ギャラリーなどで開催する規模の大きな作品展では、学芸員によるギャラリートークなども実施しています。学食での昼食も可能です。事前の日程調整が必要ですので、お気軽に本学総務課までお問合せください。TEL:023-627-2000





## OPEN GALLERY



## SHORT REVIEW

デザセン一次審査

9月9日、朝早くから沢山のパネルが敷き詰められた芸工大の体育館。その間を縫うように慌ただしく行き交うのは、〈デザセン2009〉(第16回全国高等学校デザイン選手権大会)の審査委員と学生スタッフたち。応募総数485チームの中から、10月25日(日)に開催する決勝大会に出場する入賞10提案と、入選30提案を決定するための第一次審査が行われていました。この日審査にあたったのは小山薫堂審査委員長をはじめとする審査委員6名。エコ、医療・福祉、教育、政治、愛など、カテゴリー別に並べられた提案パネルを熱心に見て回っていました。

午後からは、審査委員の投票によって入賞・入選候補40数点をピックアップし、

審査委員が候補作品を囲んで講評会。一人ひとりが、なぜ自分がその提案に1票を投じたかを説明したり、高校生らしさやオリジナリティを検証したり、提案内容の分野の偏りを考慮したり……。入賞7~8点までは満場一致で決定したものの、その後はしばらく一進一退。専門も個性も異なる審査委員の顔ぶれから、様々な視点の意見が飛び出しました。「夫婦円満の秘策ともいべきこの提案、おもしろい!スケールの小ささがむしろ個人的には好きなんですけど、みなさんどうでしょう」と中山ダイスケ教授。〈100万人のキャンドルナイト〉の仕掛け人でクリエイティブディレクターのマエキタミヤコさんは、社会性の強い提案に興味を示しながら、「コンセプトは凄く

いいから、見せ方にもう少し工夫がほしい。公開プレゼンテーションでは楽しい演出を期待したいですね」と一言。そして、小山審査委員長長の「コミュニケーション関連ではこれがどうかな。家事を楽しくしてくれる主婦目線の提案。発展性もありそうだし」という意見で最後の一点が決定。決勝大会に挑む入賞10提案がまとまりました。審査は、応募者の都道府県も学校名も伏せた状態で純粋に提案内容だけを見て行われるのですが、入賞・入選したのは、やはり常連校の顔ぶれが目を引きました。高校生ならではの視点、感性で私たちを驚かせ、感動させてくれた485チームに感謝。そして、その頂点をめざして決勝大会に臨む10チームの健闘を是非ご覧ください。 **WEB**



『デザセン2009 決勝大会』

日時:10月25日(日) 12:30-17:00

会場:本館201講義室(入場無料)

主催:東北芸術工科大学

審査委員:小山薫堂/赤池学/竹内昌義/原研哉/藤原正義/茂木健一郎/中山ダイスケ/マエキタミヤコ

出場高校:北海道札幌平岸高等学校/盛岡工業高等学校/新庄神室産業高等学校/東京工業高等専門学校/伊東高等学校城ヶ崎分校/名古屋市立工芸高等学校/香寺高等学校/神戸市立科学技術高等学校/九州産業大学付属九州高等学校/与勝高等学校

WEB:http://www.tuad.ac.jp/hidechamp/



## CLICK HERE!

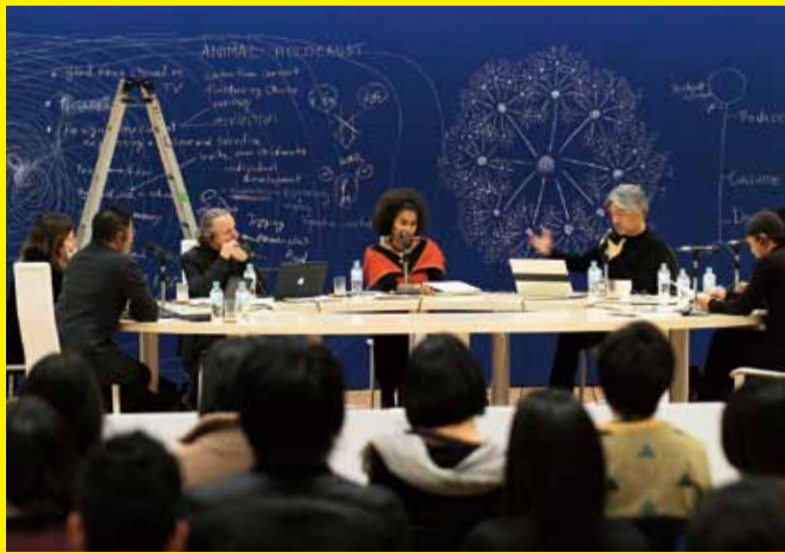
WEBでさらにg\*gツウになろう

本誌g\*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではの楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへのお申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック&チェックしてみてください。

WEB:http://gs.tuad.ac.jp/gg/

## WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉



上:2007年開催のコアミーティングの様子。7人のアーティストによる熱い議論が交わされた。下左:2007年の公開シンポジウムで発表したデザセン入賞チーム。今年は何のチームが上位3位に入賞するのか、10月の決勝大会に期待。下右:会場は大学の姉妹校でもある、京都造形芸術大学。

## 世界アーティストサミット

今年の12月に「第3回世界アーティストサミット ASK2009」を、姉妹校の京都造形芸術大学で開催します。真に優れたアーティストは、明確なビジョンと哲学に育まれた「想像力と創造力」を持って地域や社会に向き合い、作品を制作しています。そんなアーティストたちこそ、世界が直面する問題を解決する斬新なアイデアを提案し、閉塞した状況に風穴を開けることができると確信し、その議論と提案のプラットフォームとして、世界各国のアーティストが京都に集まります。そのアーティストサミットの公開シンポジウムでは、〈デザセン2009〉で上位3位に入賞した3チームによる特別プレゼンテーションも開催。高校生の真っすぐな想いを、京都でもご覧いただけます。

『世界アーティストサミット 公開シンポジウム』

日時:12月19日(土)-20日(日) 13:00-18:30

会場:京都造形芸術大学 京都芸術劇場「春秋座」

詳しくは、京都造形芸術大学 世界アーティストサミット事務局までお問い合わせください。

TEL:075-791-8027(平日9:00-17:00)

E-mail:info@artists-summit.org

